

学校規模適正化第2期実施計画(案) 青山台小学校保護者説明会

- 1 日時 平成17年12月11日(日)
午後1時30分～午後3時00分
- 2 場所 青山台小学校多目的教室
- 3 出席者 青山台小学校PTA会長 横山 求、保護者 約17名
吹田市教育委員会 理事 北野 敞義
教育企画人権室 室長 京江 民治
学校教育部 総括参事 高橋 一秀
教育企画人権室 参事 川下 貴弘
教育総務課 廣瀬 康彦
- 4 進行
 - (1) 北野理事挨拶
 - (2) 高橋総括参事 配布資料「学校規模の適正化を進めます」「第2期学校規模適正化事業実施計画(案)検討概要」「適正化に向けての4案の評価比較表」に基づき説明
 - (3) 質疑応答
- 5 質疑応答の要旨等
発言者について
青山台小学校保護者・・・発言者の順にアルファベットで表記
教育委員会事務局・・・「教」で表記
青山台小学校長・・・「校」で表記

発言者A氏

- A 平成19年から、この案が適用されるということによろしいのでしょうか。
- 教 私どもは平成19年4月を目標年次といたしまして、努力をしていきたいと考えております。
- A 青山台小学校の方で児童数が増えるということで、教室などを今後増やしていかなければならないならないと思うんですが、その工事などはどのようになるのか、子ども達が勉強しているときの妨げにならないかとか、そういったところの計画を教えていただけないでしょうか。
- 教 具体的な工事については、私どもは来年度になってやっていきたいということで、今、それに向けての予算の獲得等の業務を行っております。ある程度対象となる教室でありますとか、具体の工事についての話もしておりますけれども、細かい話は基本的には今の段階ではできないかもわかりませんが、基本は、一つは普通教室を整備してい

く、もう一つは給食施設を整備していく、それともう一つは、北千里小学校には今、言葉に少し障害を持つ子ども達を対象とした通級教室というのを設置しております、それを19年4月以降は青山台小学校で行いたいと考えております、そのための普通教室の整備を考えております。それで、普通教室の整備は、基本的に授業と並行しながらやっていくので、どうしても夏休みが中心の工事を考えております。もちろん、給食施設になりますと、給食をしながらですので、当然、夏休みがメインの工事になってくると思います。ただ、普通教室の場合は、子ども達にあまり大きな影響を及ぼさない範囲で、少しでも早く着手できるようなところがあれば、そういう工程を組んでいきたいと思っておりますけれども、基本的に子ども達の妨げになるようなことについては極力避けながら進めていきたいと考えております。

発言者 B

B 今のお話ですが、青山台小学校はつい先だったのアスベスト調査の結果で、一部で含有率が少し高いところがありましたので、現在、そこを閉鎖して、来年の夏休みにアスベストが飛散しないように対応する工事を実施すると聞いております。これは、学校規模適正化の結論と言いますか、そういう方針が出たときに、アスベストの工事とその教室の整備というのは、一貫してやっていただく形にさせていただいた方が、工期も短いでしょうし、コスト面での値段も下がるでしょうし、その辺は合わせてお考えいただきたい。前提は統合の決定とタイミングが合う場合ですが。

教 アスベストについては、皆さま方にご心配いただいております、私どもの組織とは違う組織で、説明会等もやらせていただいているのではないのでしょうか。

校 当日、ちょうど参観がありましたので、その時に何人かの保護者の方には出ていただいております、（保護者の皆さんに）お手紙も出しております。

教 そういうことで、担当が違うということがあるわけですが、できるだけ連携を取りながら、並行してやっていくような工程を、これは時期的にも夏休みに集中していくので、連携を取りながらやっていく必要があるだろうと私どもも想定はしております。具体的にどのように日程が組まれていくかは、もう少し実際に動き出してからの話にはなると思うのですが、できるだけ、本来普通教室として我々が確保したいという部分が、今回アスベストが発覚いたしましたので、新たに違う部分で教室を確保しなければならないという事態も発生いたしました。それで、その部分が私どもが校区変更したところで使いたい教室と一致する部分もありましたので、そのあたりはアスベストの関係でちょっと入り組んでおりますけれども、うまく整理しながら、できるだけ効率よく進めていきたいと考えております。

発言者 C 氏

C クラス替えがないことによるマイナス面がわからないものですから、中学校なんかでしたら、学校によっては全校生徒が多いけれども、クラス替えなしで、3年間もしくは6年間そのままの学校とかもありますよね。それで、たった1クラスでクラス替えがないということが、どういうマイナス面があるのかということが、ちょっと、青山台小学校の立場からはこういう質問は良くないのかもしれないですけども、わからないのでご説明いただけますでしょうか。

教 現在、青山台小学校はクラス替えがないから、いろんな教育の条件が遅れているということでは決してありません。先生方の努力で教育の成果もあがっておりますので、まずそれをお話しておきたいと思います。ただ、クラス替えがない、1年生から6年生までずっと同じクラスということが、本当に子どもたちの将来を見ていく中で、良いのかということが一つ言えると思います。良い面で言いますと、本当に仲のいい友達が、ずっと変わらずに6年間いく、本当に子どもたちの仲間意識も芽生えて、ある面ではすごく良いこともあります。ただ一方では、今問題になっていきますように、いったんクラスの中で友達関係がこじれてしまうと、ずっと6年間、その問題をしょったまま子どもがいくことになってしまいます。そうすると、例えば、いじめが生じると、いじめた子もいじめられた子も、それを取り巻いている子ども達も6年間ずっと同じ条件をしょっていきます。できるだけそのような子どもの負担を解消するには、まずは学校の努力が一番ですけども、クラス替え等をしていくことは、一つ良い条件になると思います。それともう一つは、6年間にできるだけ多くの先生や子どもとめぐり合うことで、子どもが将来に渡って生きていく中で社会的な力はうんと付くと思います。そのために、例えば、青山台小学校の場合でしたら、学年を超えた取り組みを、今学校でされてますよね。そういった取り組みをされる中で、一定の解消もできるんですが、できるだけ学年の中での相互努力で子どもが社会的な力をつけることは大切だと思います。それと、あとは先生の問題にいたしましても、1学年に1クラスの学校というのは、先生が今学級担任6人と、あと2人おられますけれども、8人なんです。その中で本当に1人の子どもをずっと先生が見ていただくことで、子どもの良い面を、確かにたくさん伸ばしていただくこともできると思いますけれども、クラス替えができるぐらいの数になりますと、先生の数も増えますので、できるだけ多くの先生にめぐり合うことができる。子どもはいろんな面を持っていますけれども、教師の方も最大限、子どもの良い面を伸ばそうと努力いたしますが、また違う観点から見てもらうことで、子どもの良さというのほうと明らかになってきて伸びることができると思います。そういうことでいきますと、2クラスないし3クラスぐらいの学級がありますと、その中で本当に子どもが持っている良さをうんと伸ばすことができる教育環境が整うのではないかと考えています。それともう一つは、今の子どもの中では、なかなか競争意識というのがないんです。ところが、クラス替えとかがありますと、子どもがいろんな子とめぐり合いますので、頑張るという目標もたくさん出ますので、子どもの中に良い意味での競争意識が芽生えて、子

どもがいろんな面で成長していくときの糧になっていくのではないかと考えております。

発言者D氏

D 今話を聞いていまして、私の上の子はこの案のとおりに行くと、1年から6年までクラス替えなく、1クラスですずっとあがるわけですがけれども、この青山台小学校はいつごろから、1クラスぐらいに人数が減ってきたのですか。それで、いつごろから、市の方はこの案を本気で取り組むことになったのですか。

教 平成7年が12クラスです。それから、平成8年から11、10、9、9、8、8、7、7(クラス)と来ています。今、言われましたように、10年ぐらい前から1クラスの学年が出てきているわけですがけれども、その時点ではある程度、教育委員会としては1クラスの問題については考えていかなければならなかったのかなと思っています。それで、市内では1クラスの学年が出ている学校が、その当時ではまだ、4校あったと思います。山田第五と岸一と吹六と、後に千里たけみ小になりましたが、竹見台と南竹見台が1クラスの学年が出ておりました。私どもとしましては、この問題について、青山台が全部1クラスになるのではないかということで、今年で3年目になりますが、どの学年も1クラスになってしまいますので、14年のときにいろんな案を考えまして、提示させていただいたということです。

発言者E氏

E 平成14年に案が出て、確か、この案が市報に載ったのが平成16年ですよね。記事を見た時にはもう決定かと思うぐらいの書き方だったんですけど、その時(平成14年時点)には何もお考えにならなかったんですか。

教 第2期学校規模適正化の市報の掲載は平成16年の4月1日号です。これをよく読んでいただきましたら、これは決定した中身ではなく、あくまで、この案で話を進めたいという中身ですがけれども、なにぶん市報等でこういう形で掲載しますと、これはもうこういう中身で教育委員会は進めるのかなという判断をされまして、実際、説明会の中でも、我々はまだこれは案ですよという話をさせていただいていたのですが、そうではないでしょうというようなことがありました。16年の4月で進めさせていただいたのも、あくまで案で、こういう案で進めたいということで、今回もその代替案ですがけれども、これもあくまで案で、これで進めさせていただきたいということです。それと、適正規模の考え方そのものが一番初めにもお話をさせていただきましたように、学識の関係者でそういう検討会議を設置をしたのが平成12年です。ですから、平成11年あたりから、吹田市の全体を見た場合に、子どもの数が全体的には減ってきているということがあったのですがけれども、地域的に見てみますと、ある部分では非常に開発がされて、マンション建設なんかが進んでいって、あるところでは学校規模が大きくなってきており、過小化と過大化と言いましょうか、そういうような非常にアンバランスだということで、

何か手を打つ必要があるだろうということで、一体、学校規模の適正化とはどんなことかというあたりから議論がスタートされています。それを踏まえて、一定、学識の経験者の方々に、平成12年度に検討会議を開いて、これの意見書が約1年ぐらいかかり、その意見書に基づきまして、今度は教育委員会で、その意見書を前提に分析をして、教育委員会としての適正化の考え方をまとめるというのが、13年度の1年かけてやって、14年の3月に、先ほどお話をしました適正化に関する基本的な考え方と、第1期の学校規模適正化として、緊急性の高かった4校を皮切りにしました。それで、第1期が終わって、その時点で青山台小学校の過小化というのは、一定問題になっておりました。それで、一定、第1期が終結した中で、次の第2期として、青山台小学校を検討する必要があるだろうということで、今回それに取り掛かっているということでございます。

発言者F氏

F スケジュール的な問題ですけれども、平成18年度に、もし規模適正化が平成19年4月に決定した場合、様々な準備ということで、その予算化というのは、全体的に今教育委員会としてお考えのスケジュールをお教え頂きたいと思います。議会の問題を含めて、どんな形であるのか、昨年度にしましても、そういうスケジュール的な問題で検討委員会もぎりぎりのところで、ああいう形で終わっておりますので、その辺も実現できるか、どのようなスケジュールで動かれるのかということをお教えいただきたいと思っております。

教 スケジュールにつきましては、19年4月に、仮に適正化を実施するということになりましたら、19年の1月に新1年生に対して、就学通知を出す必要があります。だから、青山台1丁目、古江台3丁目の方々にはどこの小学校ですよという通知を送ります。このためには、北千里小学校が廃校になるということが今の案では前提になっておりますので、19年の1月に就学通知を出すためには、18年の12月に議会がございまして、議会の中で北千里小学校の廃校を審議をしていただく必要があります。それで、議会の中で北千里小学校をなくすという案がとりましたら、初めて19年1月に就学通知を出すことができます。それで、18年の12月に議会に提案するためには、その1ヶ月前には、最低、市の方で、要するに市長ですけれども、判断をしていただく必要があります。11月のどこかの時点で、市長部局の方で条例を提案するという決定がございまして。そのためには、まず教育委員会で、教育委員さんが入っていただく中で、廃校のことについて、教育委員さんのご承認がいるということになります。そうしますと、11月以前に、それは今どのあたりかということとはわかりませんが、教育委員さんにご承認をしていただく必要があると。当然、教育委員さんにつきましては、去年までの経過等についてはすべて報告をしているわけですが、今のところ、できるだけ多くの意見を聞いてくださいというのが考えでございまして、それで、我々がこういう説明会をする中で、いろんな皆様のご要望とかご意見を聞いて、会議録を作りまして、

それを教育委員さんにご報告をする中で、当然これは教育委員会事務局の案ですから、この案を教育委員会に諮っていただいて、それで決定をしていただく。我々が望んでいるのは、去年に検討委員会をさせていただいて、検討委員会の方でスムーズに意見がまとまっていれば、早い段階で実施ができたと思うんですが、いろんな意見がある中で、当然反対意見がある中でまとまらなかった。それで、まとまらない以上、教育委員会が強行的にやってもこれは非常には難しい話ですので、今年、我々といましては、こういう説明会を何度も開催をする中で、最終、皆さん方のご意向はどこにあるか、地域の方々のご意向はどこにあるかということ把握をする中で、最終まとめていただくと。もちろん、学校を設置をして校区を定めるというのは、吹田市教育委員会の責任でやる必要がありますので、皆さん方のご意見をしっかり聞く中で、最終、責任を持って決めていきたいと考えております。

発言者G氏

G 今、保護者の皆さんが、教育委員会の説明を聞かれて、少し気になっているかなと思うことは、青山台小学校からの意見があまり聞こえていないということではないでしょうか。そのことに関して、私は会長という立場で、今まで検討委員会に臨んできた姿勢というのを、皆さんにも伝えてきました。教育委員会への質問というよりも、この場にいらっしゃる方に質問なんですけど、もし反対意見があるのであれば気にしないで言ってください。できましたら、私が代表したような形で言うよりも、皆さんから直接話していただきたい。せっかく教育委員会の方々がいらっしゃっているので、こういう機会はめったにないと思いますので、是非、一言ずつ話していただけたら有難いです。あと、教育委員会さんへお聞きしますが、PTAの過半数ということを特に確認しておりますが、総意というのがもし必要なら、そういう手続きを取ります。その辺についてはどういった、特に総意を確認したものがなければ、反対意見が今のところ、私にも聞こえていないというのはお伝えできます。もし手続き上、何か必要でしたらと思いお聞きしました。

発言者H氏

H 私は下の子の関係もありまして、北千里小学校に通っている子どものお母さん、PTAの方々とは仲良くさせていただいているんですけども、最初に私も子どもがこの青小に入ったときに、1クラスということで、運動会も全然おもしろくないんじゃないかとか、クラス替えがないというのは問題ではないかっていうことを思っていたんです。それで、統廃合の話がありました。私たちとしたら、お友達がたくさん増えるということで、良かったかなと思ってはいたんですけど、北小の保護者の方達からは、すごくはっきり、きつく言われました。「青山台のPTAがいらんことを言うからうちは廃校になるんや」、「どないしてくれるんや、遠くなるやないか。」と。それで、「もう青小の方

が古いんだから、北小に来たらどうや。遠い人はスクールバスでも出しゃどうや。」と、もうすごいことを言われました。それで、そこまで言われて、私らは特にそんなに、まあ子ども達のことを考えれば、2クラスの方が良いかと思うけれども、そんなに思っているのであれば、「もういいよ。」っていう、「1クラスで十分。」って言いました。それぐらいすごく言われましたし、この間も「去年出た案が、いったん中止になったのに、また出てきた」と、「青小の方で反対の行動を起こしてくれ。」とそこまで言われたんです。もう何と答えたらいいのか。だから、統廃合で19年4月に決定した場合に、こちらにお友達も来て、そうすると、そういったすごくきつい考えをお持ちのお母さん方が来られて、「青小の父兄が。」って思ったままに来られると、やはり子ども達も、父兄どうしてもギクシャクするんじゃないかというのを私はすごく心配しているところなんです。ですので、こちらに来ていただくのであれば、父兄どうしても子ども達どうしても仲良くやっていけるように教育委員会の方からも力添えをお願いしたいというか、青小のPTAが運動をして、廃校をしると言っているわけではないということをもうちょっとお願いしたいというのが意見です。

教 北千里小学校の方は、(青小の)過小校の問題はやはり理解はされています。その解決のためにどうすればいいかということで、北千里の方がお考えになっているのは、一つは藤白台を校区変更して、青山台小学校に編入すれば解消するのではないかということと、先ほどもありましたように、青山台小学校を北千里小学校に統合すれば解決するのではないかという考え方があるわけです。それで、これは最初の資料説明のときにもありましたように、教育委員会でも青小を北小に統合する案、北小を青小に統合する案は、実際に検討いたしまして、先ほどの説明のように、要は校舎の優位性というか、物理的にどちらが有利かということで、今のところ判断をさせていただいているんですけども、北千里の方が非常にゆったりと造られていれば、そういう案もあり得たわけです。その辺はできるだけ、その地域にとって、どちらが子ども達にとって良い影響を及ぼすかというようなことも検討する中で判断しているわけで、それで、今のところ青山台小学校に統合する案というよりも、原案と言いますか、青山台1丁目を元に戻し、古江台3丁目を元に戻す案が自然であろうということ考えているわけですけども、藤白台小学校の方にもご意見をお伺いをしたときに、向こうの方(藤白台)のご意見というのは、「やはり青山台の住区の問題で、青山台1丁目がまず元に戻っていただくというのは、これが当たり前なことではないですか。それで、なおかつ青山台小学校のことが解消しないのであれば、当然藤白台としても、隣接である以上は、どうしたらいいかということの検討には入るけれども、青山台の住区の方が、自分のところの問題をほっておいて、隣の町まで手を出すという、そういう考え方はやはりおかしいのではないですか。」というのが、やはり藤白台では非常に強いご意見であるし、上山田地域の方が、目の前の小学校を素通りして、隣の小学校に行くというのも不自然であると。それから、北千里小学校というのは、調整校ということで当初建った中で、子ども達が地域に参加

するのに、それぞれ地域に分かれて参加をしている。これは本当は非常におかしな話ですけれども、その当時の地域の方々は、学校もそうですけれども、いつでも元に戻る状態にしておこうと。だから、青山台1丁目の子どもさんが、いつでも青山台小学校の地域の行事に参加できるというのは、いつでも戻って来られるようにしておこうという配慮を、ずっとこの30年間やって来られた。それが今、この情勢の中で児童数が非常に少なくなって来ている情勢の中では、やはり元に戻るのには普通ではないか、自然ではないかと教育委員会は判断しているということです。

発言者I氏

I 先ほどの話にもありましたように、クラス替えできるかどうかというだけではなくて、やはり、この問題は地域も絡んできていると思うんです。最近のニュースを見てみますと、子どもを取り巻く環境というのは、すごく悪くなってきていると思います。特に通学路が危ないという状況の中で、子ども達を守っていくために、学校と地域が一体となっていかなくてはいけない。その必要性はすごく大きいと思います。そういうことを考えると、住区と校区が一体の一つのコミュニティの中に一つの小学校があるというのが望ましいのではないかと思います。(検討概要の)第1から4案までありますけれども、やはり第4案というのは、適正規模のための数合わせでしかないような感じがします。そういうことを考えますと、第1案(原案)が一番望ましいのではないかと思います。

発言者J氏

J 今のお話とちょっとつながるんですけども、青山台1丁目の方は、今、北千里小学校に行かれています。その方々が北千里小学校の方を望んでらっしゃるのでしょうか。今のお話だとやはり、地域と校区が一体化している方が良いということ、いろんな面で本当にこのような危険な世の中ですので、そういったことも考えられると思うんですけども、そういう点で、どういうことを希望されているのか、近いから、やはりその方が安心ということもあると思いますし、やはり青山台地域にいますので、青山台小学校の方が安全を考えると良いという意見の方もいらっしゃるかもしれないし、本当のところの希望を私達は知りたいと思います。それをいろいろ考えた上で、お互いに一番大事なことは、子どものことだと思います。子どもがとにかく安全に学校に行って、元気に帰ってきてくれること。それを守るために何が一番良いのかということを考えていますので、青山台1丁目の方々がどういう意見なのかを教えてくださいたいと思います。

教 青山台1丁目の保護者の方々のご意見というのは、我々も実際のところ完全に掴んでいません。それで、アンケートもしておりませんし、多分、いろんなご意見があると思います。今、現に青山台小学校に行かれておられる、青山台1丁目以外の方でも発言がしづらいという現状から考えた場合に、青山台1丁目にお住まいの方は、それ以上に自

分自身の考えていることを、言葉で発言するというのは非常に難しい状況ではないかということも一定推測できます。そして、いろんな意見があると思いますが、今まで行っている学校がなくなるということは、これは心情的にすごくわかるわけですが、同じ青山台1丁目でもそれぞれいろんな条件があって、やはり青山台小学校の方が良いという方もおられるでしょうし、北千里小学校の方が良いと言う方もおられて、それはそれぞれの条件によって違うので、その辺の、後に影響を及ぼさないようなアンケートが取れば、それが一番青山台1丁目にお住まいの保護者のご意見ということで掴めるのかもしれませんが、それは非常に難しいのではないかと今の段階では思います。

発言者 K 氏

K 私も昨年度の検討委員に入っておりまして、当初から申し上げておりましたけれども、やはり、まず一つは学校規模適正化というものの考え方は賛成いたします。PTA会長を3年やった中で、1クラスの問題というのは、幸いにも、まだ大きないじめとかは起こっていないと思っています。ただ、細かいところでは起こっている可能性は十分あると思います。かつ、運動会は楽々、いつも保護者が好きなときに来て、好きな演技を見られるという優れた環境ですが、なにぶん、ここまでもたせているのが精一杯というような状況です。幼稚園と比べると非常に天国みたいな状況ですが、やはり、子ども達は必死で、それも1つのリレーに2回走ったりする子がいたり、学年の演技ができなくて2学年で1つの演技をすとか、いろいろ子ども達も一生懸命にこういう環境で頑張っています。そういう意味では学年を超えた交流というのは、他の学校よりもよくできているのかなと思います。ただ反面、同世代だとか、人との付き合いとかいうところが弱いという気がします。どうしても、保守的になりがち、そういうところが見える気がします。それともう一つは、PTAの活動は、非常に頭数が少ない、予算が少ないというような苦しい活動を強いられています。中心も今は防犯活動だけで、本来のPTAとしての楽しいサークル活動等も一切できていないというような厳しい状況です。それから、先生方の問題は我々が考えることではないのですが、個人的な努力でゆとりを持って接していただけています。けれども人間ですから、学年で1人の担任ということは、学年としての仕事が1人に集中するということであって、時間的にも非常になくなっていると思います。そんな中で、子ども達の教育と安全を見守っていただくということが、非常に厳しいということを察したいと思います。最近また凶悪な事件が発生していますので、校長先生も他の学校ではやらなくても集団下校をやるということで安全確保に取り組んで頂いています。これは定時の集団下校ですが、あるところまでは先生方が送っていただけると思うんですけども、学年別集団下校とかをすると先生方が足りないのです。当然、何箇所にも先生がついていくわけにはいかないのです。非常にその辺も保護者間でも混乱するような状態になっています。やはり、小規模という問題はいろんなところに影響があると思います。確かに、子どもの育成というか、自分たちの子どもをどうや

って育てていくかというところが一番重要なわけですが、それを支える環境を備えていただきたいと思います。ここからは、会長の意見ではないです。北千里小学校の保護者の方には申し訳ないのですが、また、調整校という言葉をあまり使いたくないですが、やはり歴史がある話だと思います。かつ、自治会関係、地元のいろんな諸団体の方とお話をしている中で、非常にそのあたりから、北千里小学校の保護者の方がどのくらい思われているのかわかりませんが、青山台1丁目の北千里小学校の子どもを真剣に考えて、例えば、今回のクリスマス会でも出ていただくか出ていただかないかとか、毎回、北千里小学校の子ども達の扱いをどうしようかということで必ず話題にのぼります。そういうことも、地元もクールに切るというのではなくて、どうやってその地域で子どもを守って育てていこうかということを考えていく中で、やはり古江台と青山台の自治会とか、いろんな諸団体が一つになって活動するのは非常に難しいことです。それぞれの考え方で動かざるを得ない状況だと思います。北千里小学校の保護者の方にも是非その辺も理解していただきたいと思います。ご自分達に確かに影響が出るかと思いますが、地域全体のコミュニティとか吹田市という行政の中で生活をするということの権利と義務の部分もあると思います。そういうことで、前向きに検討していただきたいと思います。ここは個人的な意見ですが、そういうふうに申し上げたいと思います。